

「NHKの衛星放送の保有チャンネル数の在り方に関する研究会」

第8回会合 議事要旨

1 日 時

平成20年5月30日（金） 15：30～16：30

2 場 所

総務省第1特別会議室（中央合同庁舎2号館8階）

3 出席者

（1）研究会構成員（敬称略）

菅谷座長、石岡構成員、伊東構成員、音構成員、高橋構成員、鳥居構成員（6名）

（2）総務省側

鈴木総務審議官、小笠原情報通信政策局長、河内審議官、今林総務課長、吉田放送政策課長、奥放送技術課長、武田衛星放送課長、井幡放送政策課課長補佐

4 議 事

（1）開会

（2）議題

- ・意見募集で提出された意見及びそれに対する研究会の考え方（案）について
- ・最終報告書（案）について

（3）閉会

5 議事の概要

- （1）事務局より、資料1「意見募集で提出された意見及びそれに対する研究会の考え方（案）」、資料3「「NHKの衛星放送の保有チャンネル数の在り方に関する研究会」最終報告書（案）〈見え消し版〉」に沿って説明。質疑、意見交換における構成員からの主な発言は以下のとおり。

- P.12 の図表6「NHKの衛星放送に関するアンケート調査概要」について、実施時期を書いた方がいいのではないか。

「最終報告書（案）」の P. 12 にアンケートの実施時期を追加した上で、「最終報告書（案）」及び「意見募集で提出された意見及びそれに対する研究会の考え方（案）」が了承された。細部の表現の確認について、座長一任とすることが了承された。

（２）その他

最終報告書の取りまとめに当たって、各委員から所感が述べられた。主な内容は以下の通り。

- 多くの規制は何らかの形で、予期しない影響を及ぼすことが多く、それがゆえに規制のデザインを作るのは難しい。今回の研究会では、角を矯めて牛を殺すことがないように慎重に議論させていただいた。NHKにおいては、国民から委託された事業に関して、それだけの責任をさらに果たすことを考えていただきたい。
- 民間の企業で言えば、売れ行きや株価が支持されているかどうかのパロメーターになるが、NHKの場合には、視聴率だけでなく受信料がきちんと徴収できるかということが大きな鍵をなるとはではないか。その意味では、NHKは今後とも経営の透明性を高めて、また番組の公正さ等を通して、国民視聴者の理解を高めていくことが非常に重要ではないか。
- 多チャンネル時代のNHKの在り方、BS放送の在り方、特に公共放送としてのBS放送はどのようなものかということについて、NHKから少し踏み込んだ内容が示されたが、個人的にはまだまだ不十分だと認識している。今後の中長期経営計画の議論等でより一層議論を深めていただき、国民に理解をしていただけるようなBS放送を行っていただきたい。
- BS放送の魅力の最たるものは、地上デジタル放送では提供することのできないフルスペックのハイビジョン映像を提供することではないか。そのような、高画質の放送を行っていただくよう、民間のBS放送事業者にも要望したいが、個々の放送事業者の経営判断に関わることであり、なかなか難しいところである。したがって、せめてNHKには、フルスペックのハイビジョン映像による放送を強くお願いしたい。また、そのような放送を行うこともNHKのBS放送の役割の一つではないか。
ポストハイビジョン、ポストデジタル放送に向けて、最新の技術開発

に基づいた、新しい魅惑的な放送サービスの実現が期待されるどころであり、BSにはそのようなサービスの実証実験の場として、また立ち上げの場としての役割もあるのではないか。NHKにはその先導役になっていただきたいと期待している。

- 通常、NHKが拡大するということは、民業圧迫につながるが、BSの市場においては、NHKが先導的な役割を果たしており、通常の市場と比べると非常にユニーク特質を持っている。

制作事業者と放送業者の下請取引等、コンテンツ取引の適正化の問題もあり、一定の市場における公の役割をどのように汲み取ってコンテンツ振興等の問題につなげていくかと意味で、今回の研究会は、いい機会になったのではないか。

- NHKから提案のあった各チャンネルの役割自体は評価できる。しかしながら、NHK改革や次期経営計画に関するNHK内部の議論を聞く限り、危機感の薄さに懸念を感じざるを得ないところであり、NHKが、衛星放送に関する実際のアクションを今の緩さの延長で行うならば、報告書の方向性は大きく修正されるべきである。

また、ネットの普及により、視聴者の側から見たメディアの選択肢は大きく増えたが、その中で衛星放送の位置付けが不明確になってきている。行政の責務として、将来の衛星放送の市場をどうデザインしていくかという、産業政策的な視点も加えた方向性を示すべきではないか。

- メディア環境が大きく変化する中で、NHKから新たなBS放送の役割に関して提案があったことが大きな成果だったのではないか。NHKには、これらの内容をしっかり実施いただくようお願いしたい。

また、NHKから提案のあった外部プロダクションに対するプラットフォームとしての役割がうまく機能し、NHKと直接資本関係のない独立系の政策事業者がその機会を使い、新たに世界に飛び出すようなコンテンツが制作されれば良いと思う。

放送の世界は環境変化が激しく現行の制度だけでは、新しい状況変化に適応していくことが難しい。そういう意味で、今回のような研究会が開かれ、公開の場で関係の有識者の方々の意見を聞きながら議論をしていくということは、視聴者のみならず、NHKの経営にとってもマイナスではないことではないか。今後とも、このような機会が設けられ、NHKが公共放送としての役割をさらに充実させていくことを期待してい

る。